

日本最大級！！ラベンダー園「千年の苑」事業

—No.46 嵐山町—

【事業の目的】

嵐山町は、多くの市町村同様、農業者の高齢化が進んでおり、耕作放棄地も増え、田畑の良好な景観の維持が課題となっています。さらに若い方が居住し続ける魅力的な町とする様々な仕掛けも必要となっています。

そのため、農業、商業、自然、歴史、文化などの嵐山町の豊かな地域資源を新たな視点で着目し、新たな観光農業を中心とした「人と物の流れ」をつくることを目的としています。

【事業の内容】

平安から鎌倉時代にかけての長大な歴史が息づく嵐山町の豊かな自然、誰しものが心安らぐ里山、里川が支える美しい景観を資源とし、ラベンダーで満ちた「千年の苑（せんねんのその）」という雄大で新しい景観をつくることにより、町の活性化と町民が誇れるまちづくりを実現します。



ラベンダー農園「千年の苑（せんねんのその）」は平成31年度本格オープンを予定しています。グロッソ、ロングホワイトなど3～4種のラベンダーを植栽予定。植付面積は約8ヘクタール（関東随一。ラベンダーの植付面積では日本最大級の広さ）、植付株数は約5万株。ラベンダーまつりを6月上旬～7月上旬の間で約1か月開催予定。ラベンダーまつり開催時は、摘み取り、手芸教室、地元製品の販売を実施する予定です。

【事業年度】

平成28年度～

（平成31年度本格オープン）

【予算額(千円)】

63,135千円（平成30年度）

【財源】

地方創生推進交付金（国）、一般財源（町）



【事業実施に至った背景・経緯】

ラベンダーを選定した理由は次のとおりです。①多くの花の見所は4月～5月であり、他の市町村との競争を避ける時期にあること、②多年草であるため、毎年植え替える手間がいないこと、③花の見頃時期は6月上旬～7月上旬頃で約1ヶ月の期間があること、④ハーブとしての価値があることから、癒し効果があり、花実を利用した商品としての産物も創れること。

【事業のPRポイント】

ラベンダーの植付面積は約8ヘクタールであり、最終的には10.5ヘクタールの植え付けを行うこととしています。平成31年度において日本最大級の広さとなる予定です。



ただし、ラベンダー農園を完成させることが目的ではなく、新たな観光農業を中心とした「人と物の流れ」をつくることを本来の目的としています。

【事業実績・成果・今後の展開】

ラベンダーは開花後の6月上旬から7月上旬頃が花の見頃で、この時期の来町者が著しく増加することにより、①嵐山町の知名度・イメージが上がる、②来町者の増加に伴い、モノの売り上げが増える、③この時期を中心とした農産物の購入需要が高まることから、生産者の意欲も向上し農業の活性化が図れるなど、「人と物の流れ」が相乗効果を産むことが期待されます。

【参考資料】

＜プレオープンイベントの状況＞

2018年6月23日（土）、24日（日）にプレオープンイベントを実施しました。

入場者は2日間で合計約27,500人となり、予想を超える盛況となりました。

摘み取り体験も2日間で約2,730人が参加し、摘み取ったラベンダーをスティックにする体験も大変人気がありました。



〔 連絡先 〕

農政課農業振興担当 0493-59-6671

